

インマヌエル中目黒キリスト教会 2013年4月21日聖日礼拝

召天者記念礼拝に臨み
「自分の民に加えられ」

創世記25章8－10節

竿代 照夫 牧師



聖書朗読

旧約聖書

創世記25章8－10節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp37~/ 第三版の聖書はp40～

- 8 アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、自分の民に加えられた。
- 9 彼の子らイサクとイシュマエルは、彼をマクペラのほら穴に葬った。このほら穴は、マムレに面するヘテ人ツォハルの子エフロンの畑地の中にあつた。
- 10 この畑地はアブラハムがヘテ人たちから買ったもので、そこにアブラハムと妻サラとが葬られたのである。

説教

召天者記念礼拝に臨み 「自分の民に加えられ」

創世記25章8－10節

竿代 照夫 牧師



主テキスト

「アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、自分の民に加えられた。」

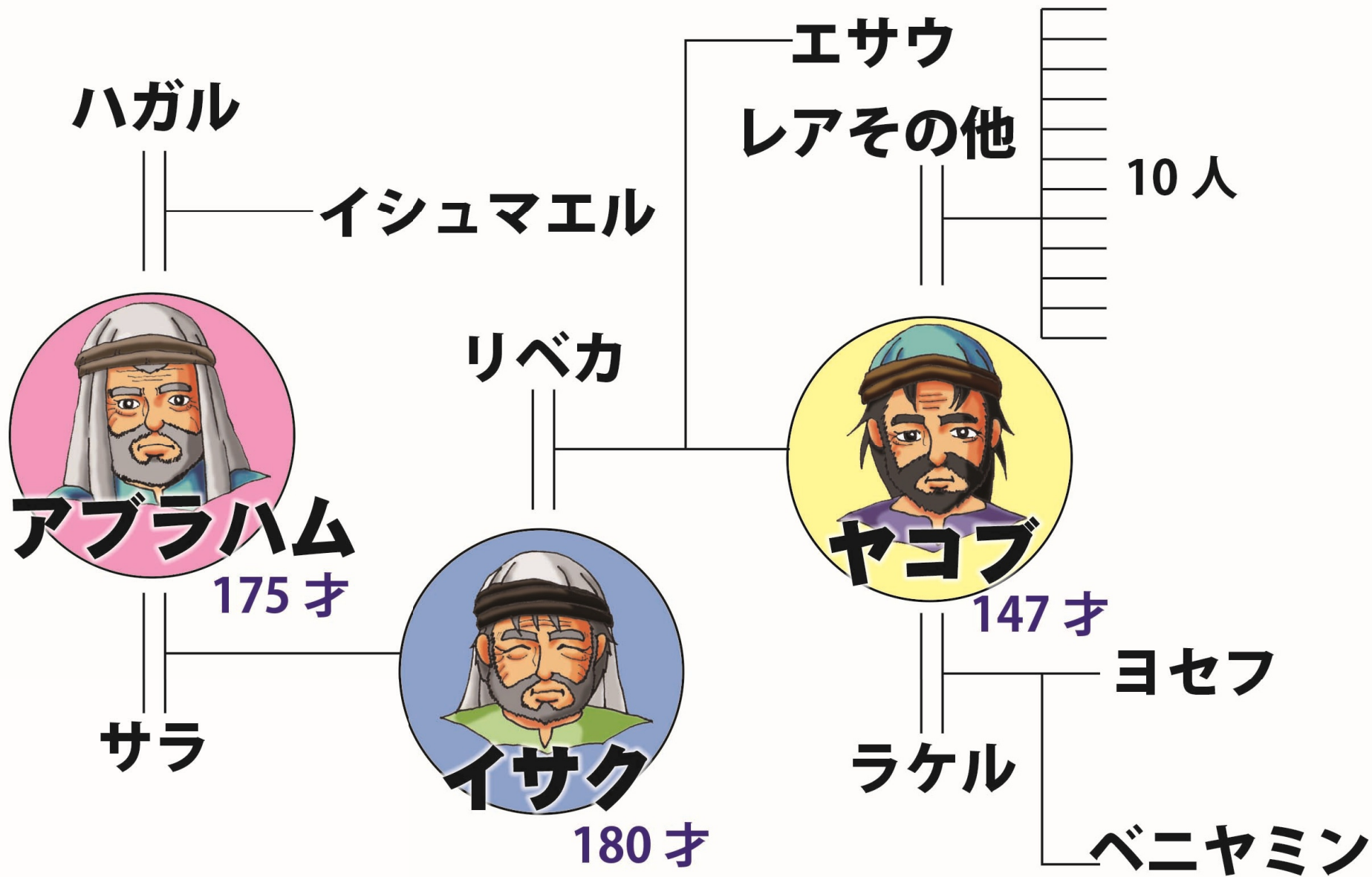
(創世記 25 : 8)

A. イスラエルの族長の最期

(家系図参照)

- ・ アブラハムの死：「アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、**自分の民に加えられた**。彼の子らイサクとイシュマエルは、彼をマクペラのほら穴に葬った。」

(創世記 25 : 8—9)



- ・ イサクの死：「イサクの一生は180年であった。イサクは息が絶えて死んだ。彼は年老いて長寿を全うして**自分の民に加えられた**。彼の子エサウとヤコブが彼を葬った。」（創世記 35:28-29）

・ヤコブの死「彼（ヤコブ）はまた彼ら（ヤコブの12人の子ら）に命じて言った。『私は私の民に加えられようとしている。私をヘテ人エフロンの畑地にあるほら穴に、私の先祖たちといっしょに葬ってくれ。・・・そこには、アブラハムとその妻サラとが葬られ、そこに、イサクと妻リベカも葬られ、そこに私はレアを葬った。』ヤコブは子らに命じ終わると、足を床の中に入れ、息絶えて、**自分の民に加えられた。**」

（創世記49:29-33）

- ・ 三人の共通点

1. 彼らは豊かな人生を送った。
2. 彼らの葬儀には、相克していた子らも協力した。
3. 彼らは、マクペラのほら穴に葬られた

B. 「自分の民に加えられた」 族長達

1. 彼らは、先祖たち・友達とリュニオン（再結合）された
2. 彼らは、リュニオンを待ち望みつつ、地上では「旅人」として生きた「これらの人々（族長達）はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。彼らは・・・自分の故郷を求めていることを示しています。

・ ・ ・ 事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。」

(ヘブル 11 : 13 - 16)

3. 彼らは神と共に生きている

「[主イエスの言葉] 死人がよみがえることについては、モーセも柴の個所で、主を、

『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神。』と呼んで、このことを示しました。神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。というのは、神に対しては、みなが生きているからです。」

(ルカ 20 : 37 - 38)

C. キリスト者のリユニオン

「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。・・・

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。

このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。・・・この言葉をもって互いに慰め合いなさい。」

(1テサロニケ4：13－18)

1. 先に召された人々は「眠っている」
2. 彼らはキリスト再臨のときに復活する
3. 今生きているものも復活の体に変えられ、主と共にいつまでも生きる
4. リユニオンへの希望は大きな慰めである

おわりに

リユニオンへの希望をもって人生を過ご
そう